JIYD

2017

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム（JIYD）

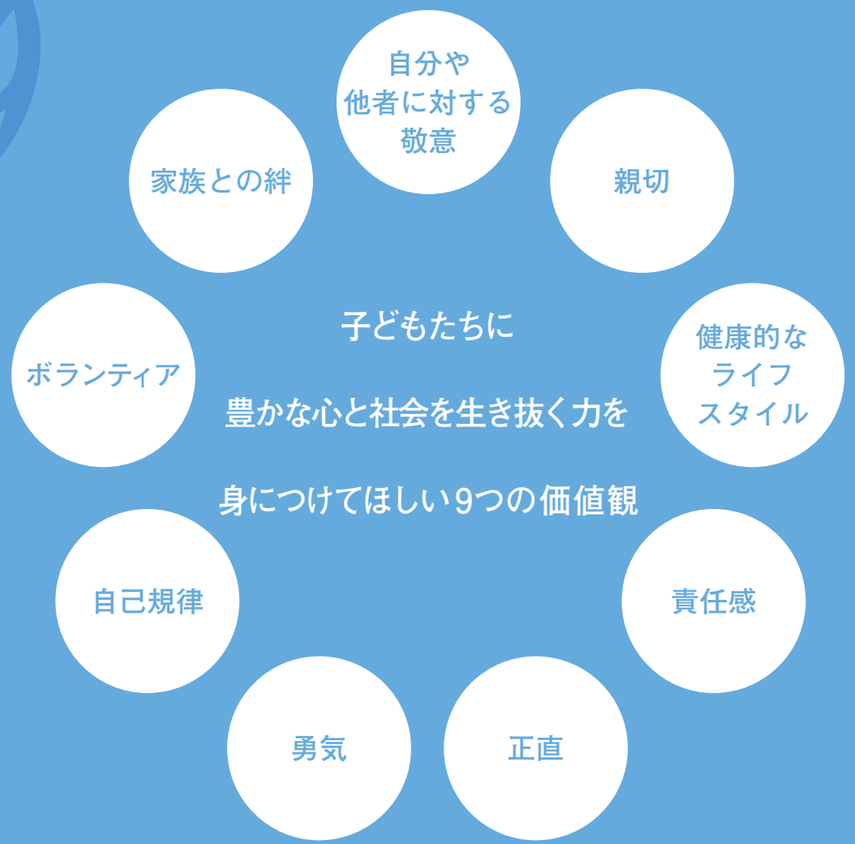
年次報告書

Japan Initiative for Youth Development
Annual Report 2017

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム
Japan Initiative for Youth Development

〒108-0074　東京都港区高輪4-10-63-302
TEL：03-3440-3373　FAX：03-3440-4447
E-mail：info@jiyd.org　URL：http://www.jiyd.org

発行者　馬渕 英晃
発行所　特定非営利活動法人　青少年育成支援フォーラム
発行日　2018年6月1日



9つの価値観を育む「ライフスキル教育」を子どもたちに届けよう
私たちは「Lions Quest ライフスキル教育プログラム」の
普及活動に取り組んでいます

FOCUS 2015～（今、注力すること）

プログラムの継続的な実施を促進するために

1 多様な教育現場に対応する運営方法づくり

教育現場のニーズや社会の実情にあわせ、ワークショップやフォローアップのさまざまな開催方法を提案する

2 実践者や協力者のネットワーク構築

プログラムの実践者や支援者が情報共有・意見交換する場を拡大する

3 普及活動の継続・拡大に有効な情報公開や広報活動

普及展開の例示や実践事例などの広報ツールを定期的に提供する

*1999年にライオンズクエストプログラムを日本に導入して以来、普及活動の基盤整備・全国拡大を経て、2010年以降は「深化」を大きなテーマとしてきました。2014年度までのFOCUS（注力すること）として、授業実施率の向上、評価事業、教材開発の3点を掲げてきました。評価事業では、2010年から3年間をかけ、実践校でのプログラムの効果を測るプログラム評価が終了し、教材開発では、2013年7月より、それまでの「思春期版」に加えて「小学生版」を開発・導入しました。

理事長あいさつ

理事長　野村　彰男
2018年5月吉日

「ライフスキル教育」によって、子どもたち一人ひとりの「人間力」を高め、社会や環境の大きな変化を通して、たくましく生き抜く力を育みたい

日本の子どもたちはかねて、「あいさつが上手にできない」「がまんすることが苦手」「積極性に欠ける」といったことが特徴的だと指摘されてきました。私たち青少年育成支援フォーラム（JIYD）が各地のライオンズクラブとともに取り組んでいる「ライフスキル教育」は、そうした子どもたちに日々接する先生方を通して、クラスの仲間とうまくかかわる能力や、自分をコントロールする力をつけ、自分を大事にしつつ、集団の中で協調して行動することもできるような子どもに育むことを目指しています。

つまり、将来を担う子どもたちに、人生(ライフ)を豊かにする能力(スキル)を身につけさせようと目指す活動なのです。目まぐるしく進化するIT技術とネット社会の拡がり、将棋や囲碁の名人を追い抜いた人工知能、観光客の増大で拡大する異文化交流や生き方の多様化など、社会も子どもたちを取り巻く環境も大きく変化しています。そんな時代を生き抜くためにも、大事なのは子どもたち一人ひとりの「人間力」だと信じての活動にほかなりません。

このほど2017年度のJIYDの年次報告書ができあがりましたので、全国のライオンズクラブの方々をはじめ、日頃から私たちの活動をご支援くださっている皆さまにお届けいたします。

今回の報告書では、茨城県美浦村立大谷小学校でのライフスキル教育の実践例をご紹介しております。2018年3月開催のJIYD総会で講演して下さった園田浩美教頭（当時）に執筆していただきました。大谷小ではライフスキル教育を教育の基盤として取り入れていること、さらに実践する教員の指導に差が出ないように配慮されていることがうかがえ、感銘を受けました。

JIYDにとって、昨年度の話題のひとつは「幼稚園／保育所(園)版教材」の完成でした。この幼保版教材開発を担当して下さった理事・認定講師の北山敏和先生は、幼稚園、保育園児は指導者を悩ませる年代ではあるが、そうした年代の「子どもたちの自律心と、仲間と共に生きる力を育てるとても良い教材ができた」と言っておられます。さらに、長岡、京都、大分、尼崎の4か所で幼保版教材を使ってワークショップをされた認定講師の柴咲子先生も、「幼児の発達段階にピッタリの内容」だと評価しておられ、これからの普及への励みになります。2か所での実践例については、それぞれライオンズの方や幼稚園、保育園の先生方による報告をお読みいただきたいと思います。

あと一つ、全校でライフスキル教育を実践している長野市立東部中学校の報告にもご注目ください。「自然な流れで友達と関わり合う場面をつくることができる」「生徒自身の考えを深めたり、仲間の思いを共有したりできる時間を設けることができる」といった実感が長所として指摘されており、これまた元気づけられる成果だと考えます。

JIYDの活動も徐々に広がりを見せ、日本の子どもたちが直面する課題に関心を持つ他団体からも注目されるようになってまいりました。しかし、JIYD自身が直面する課題はまだまだ多く、私たちも一層の努力を重ねなければなりません。ライオンズクラブの皆さまをはじめ、日頃ご支援下さっている皆様方の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

〈実践事例〉

美浦村立大谷小学校①

全教科領域で実践、教員自身がアクティブラーナーに！

「ライフスキル教育」を教育の基礎として取り入れていらっしゃる美浦村立大谷小学校の実践について、教頭先生にご講演いただきました。さまざまな工夫と効果について、ご紹介します。

プロフィール
茨城県で平成元年採用　小中学校の教員としてつくば市・龍ヶ崎市・美浦村で勤務。義務教育課指導主事として3年勤務。ライフスキルの実践は、平成30年3月31日まで勤務していた美浦村立大谷小学校でのもの（現在はつくば市立竹園西小学校教頭）

美浦村立大谷小学校　教頭
園田浩美先生

＊講演時

参加者の熱気と意欲

今回、青少年育成支援フォーラム主催の講演会で講演するという機会をいただき、ありがとうございました。教職員向けに話をすることがほとんどであったため、授業づくりをライオンズクラブメンバーや関係者の方々と一緒に考える場をいただけたことは本当に新鮮でした。90分間の講演と体験の時間でしたが、終わった時には、参加者の熱気と意欲に私自身もさらなる活力をいただいたように感じました。

ゲームは毎日実施

私は、平成元年に茨城県で新規採用となり、つくば市立竹園東小学校をスタートに、４校の小中学校で教諭時代を過ごしました。“ゲームを毎日行ったこと”、これは胸を張っていえます。一日も欠かしたことはありませんでした。とはいっても、簡単なミニゲームです。授業の終了間際、３分余っても、楽しいゲームを投入します。あっという間にできるもの。漢字しりとり、九九の早口言葉、１分ゲーム、集中力ゲーム、リズム打ちバトル等々、自作のゲームもありました。子供たちの笑顔が好きで、活動的に交流する姿を見ることに幸せを感じていました。

机が前向きのままの授業はしない

中学校教諭時代は、社会科を教えていましたが、テスト時間以外は、机がずっと前向きのままの授業は一時間も行ったことはありません。学習形態を変えて、交流すること、全員が参画する楽しく夢中になれる授業づくりに取り組みました。個々の考えを出し合い、チームとしての考えをまとめ、全体で共有する、最後には授業の振り返りを行い、一時間の授業を共に受けた学級の友達がどんな学びの経過をたどったか、何を感じたか、素直な意見・感想を聴き合いました。生徒もこの授業スタイルを好み、次の社会科の時間を楽しみに待つようになり、学力も向上しました。この授業スタイルを全教科において実践できるよう、美浦村立木原小学校研究主任時代に「木原っこ授業スタイル」をつくりました。

「授業スタイルブック」発行

そして、茨城県教育庁義務教育課に指導主事として勤務した3年間で、「授業スタイルブック」を発行しました。この県から出された冊子には、茨城県内の小・中・高等学校・特別支援学校の授業への取り組みが掲載されています。テーマは、全員が活躍できる授業づくり、いじめのない居心地のよい学級集団づくりでした。

ライフスキルとの出会い！

教頭として赴任した美浦村立大谷小学校に、美浦ライオンズクラブの方々がライフスキル研修の内容を説明に来校されました。前述のような授業づくりを考えていた私にとっても、日々子供たちの人間関係づくりに頭を悩ませていた教職員にとっても、ライフスキルの内容は非常に魅力的にうつり、すぐにやってみたいなと感じました。

やってみる、やりっぱなしにしない

早速、平成28年度の夏休みに全職員が2日間の研修を受け、2学期より年間活動計画を作成し、学級活動や道徳の時間に実践をしてまいりました。また、ライフスキルの授業を行った後には、授業の反省会や全体研修を行いました。

でこぼこをつくらない

教職員の力量に「でこぼこをつくらない」ことが研修を行う上で最も大切なことと考えています。年度末にフォローアップ研修を受け、教職員の研修意欲に温度差が出ないように配慮していきました。このフォローアップ研修が、その後の本校の校内研修に影響を及ぼします。ライオンズクエスト認定講師の先生にライフスキルと主体的・対話的な学びとの関連など、本校が行おうとしている研究課題に迫る内容でご講義をいただき、全職員が向かうべき「大きな山」を獲得することができたのです。

全教科領域で共通実践

どの子も受け入れられ活躍できる望ましい人間関係がある学級集団でなければ、主体的・対話的で深い学びなど実現できません。ライフスキル教育を通して児童同士の円滑な関係を構築することが、「主体的・対話的な学び」の推進につながると考えました。どの授業時間においてもライフスキルを意識し、伸ばしていくことができる授業づくりを行うため、研究テーマを「子供たちとつくる協働思考過程の工夫～ライフスキルを基盤とした主体的・対話的な学びの実践を通して～」としました。協働思考とは、共通の課題に対し、個々の多様な方法・考え方を出し合いながら、主体的・対話的に課題解決に向かい、それぞれが高め合える学びを目指したものです。具体的には、下記の3つの柱を設定し、全教科領域で共通実践を行いました。

1. 意欲をもって全員が授業に参画できる課題設定
2. 主体的・対話的な学びの工夫
3. 学びがいを共有し合う振り返り

1年1組　学級活動～ライフスキル学習に取り組んでいる様子

全職員が授業公開

平成29年11月には、全教科領域で、全職員が授業公開を行いました。ライオンズクラブや青少年育成支援フォーラムの方々、認定講師の先生も遠方より参観にお越しくださいました。そして、ライフスキルの授業を公開した本校の有坂弥子教諭には授業後も懇切丁寧な指導助言をいただき、本当に感謝しております。また、学校評価も公開し、学校づくりに地域の方々や専門家から意見をいただいていることから、研究発表会当日は、臨床心理士、社会福祉士、適応教室相談員、民生委員児童委員、主任児童委員、学校評議員、教育委員、学校医など様々な立場の方々に来ていただき、授業に対する意見・感想も集約できました。

教科の授業～ライフスキル基盤とした授業展開の様子

〈実践事例〉

美浦村立大谷小学校②

教科の授業～ライフスキル基盤とした授業展開の様子

より良い解決方法を探る習慣

協働思考過程は、2020年から全面実施となる新学習指導要領にも合致しています。これからの時代に活躍していく子供たちには、他者と協働しながらより豊かなものを創り上げていくことが期待されています。学級、学校は小さな社会です。その中で、毎時間主体的・対話的に問題解決に向かう協働思考過程を積み重ねていくことで、主権者になった時に、より良い社会づくりに貢献していってくれるのではないかと期待しています。どんな困難や変化が伴う社会であっても、より良い解決方法を探る習慣をつけていきたいと強く感じているところです。

安心して自分の意見を発言できる

本校は、ライフスキルに取り組んで2年ですが、確かな効果を実感しています。各学年の実態に応じて、ライフスキルを取り入れてきましたが、成果としては、主体的に学習課題に取り組み、ペアやチームを生かして考えを深めていくことのできる児童が増えたこと、ライフスキルの導入により、学級の中で意見を大切にされるため、以前に比べて安心して自分の意見を発言できる児童が多くなってきたことがあげられます。

教員全員で高め合うことを楽しむ

ライフスキル研修は、教職員がやってみて、効果があると実感できれば研修として継続していくと考えます。短期スパンではなく、1年生～6年生まで継続できるような研修体制も必要です。研究部会を少人数で組織することで、校内研修において、同僚生が生かされ、教員自らも主体的・対話的に学び合えるようになりました。また、研究発表会においては、全員が授業公開を行うこととしたため、ベテランと若手が双方向に学び合うようになり、教職員間の研修に対する温度差がなくなりました。まさにでこぼこがなくなり、全員で高め合うことを楽しむようになりました。

教員自身がアクティブラーナーに！

子供たちにライフスキルを求めるなら、教職員も‥‥。主体的・対話的な学びを子供たちに求めるなら、教職員自身がアクティブラーナーに‥‥。そんな思いを伝えるべく、楽しくあっという間につくったパワーポイントは、写真も多かったとはいえ100ページ近くになりました。楽しい楽しいひとときをありがとうございました。参加された皆様とまたどこかでお会いできることを願っています。

研究の実際

ライフスキル

- 各単元・各授業の目標が明示
- 活動に流れがある
- つなげる（持っている知識と新しい情報を結びつけ、やり方を説明する）
- 大小さまざまな困難に直面したとき、問題を明らかにして建設的に対処（解決）できる方法を学んでいく
- 子供たちが自ら参加する授業展開
- 子供たち自身の手で授業が進行
- 自由に意見を述べ合い、全員が考えを発表する
- 授業や活動の最後に必ず「振り返り」を実施
  - ➡やりっぱなしにせず、学んだことが生活に結び付くようにする

協働思考過程

- 毎時間、しっかりした目標設定
- 見通しをもって学習に取り組める
- 自らの考えを出し合い広げながら、授業が進んでいく
- 一人一人の考えを持ち寄り、聴き合いながら、学習課題を追究していく
- チームワークを重視し、子供たちの意見をつなぎ、より良い学びを創り出していく
- 毎時間、振り返りの共有で次時の学びにつなげる主体的な学びの重視
- 子供たちの意見から学習のまとめを創り上げる

協働思考過程の中で活用できるライフスキル 児童

- 自己肯定感
- 他者を大切にする
- 資料、情報を収集、分析、吟味する
- 自分の考えを的確に表現し伝える
- 相手の話を聞き、理解し、評価する
- 多様な意見を受け入れ、かつ合意形成を図る
- グループで役割分担をし、協力して作業する
- 活動をふり返り、考察する
- 何か問題や困難なことに出会った時、前向きに効果的に解決できるスキル

協働思考過程の中で活用できるライフスキル 教師

- 短い言葉で的確に指示し、子供を動かす
- 子供たちの資質、能力、特性を理解し、適切な学習課題を提示する
- 子供たちの思考、話し合いなどが円滑に進むようサポートする

＊本記事は2018年3月25日に行ったJIYD総会講演会での講演内容に基づいた内容です。

〈普及活動事例1〉

園内型ワークショップ（兵庫県尼崎市）

開催日／2017年12月26日(火)-27日(水)　開催場所／兵庫県尼崎市　対象園／からたち幼稚園グループ園ほか　参加者数／20名

子どもたちの発達段階に合わせた幅広い普及活動

ライオンズクラブ
国際協会335-A
地区
ライオンズクエスト
委員長
北川昌幸

335-A地区では12月26、27日の2日間、尼崎からたち幼稚園様にて柴咲子講師をお迎えし、全国4例目となる幼稚園での全校型ワークショップを開催しました。先生方は非常に熱心に受講され、いつも以上に濃いワークショップとなりました。2日間の修了者20名には修了証と教材が手渡され、新学期からのプログラムの活用をお願い致しました。当地区で初めての幼稚園版ワークショップということもあり、先生方にライフスキル教育を理解し、受け入れて頂けるか不安もありましたが、園児たちの生活における各場面のイメージや対応方法がリアルに示され、低年齢からの導入の必要性を認識して頂けたのではないかと思います。今後は小中学校への普及と合わせて子供たちの成長・発達段階に合わせた幅広く継続的な普及と活用を図っていきたいと考えています。

人と人との結びつきの大切さを改めて知る

学校法人 からたち幼稚園　園長　北村保子

この度ライオンズクラブより、ライフスキル教育研修会のお話をいただきまして、大変嬉しく思いお引き受けしました。幼稚園向けのワークショップ開催は全国で4番目の事例ということをお聞きし、先生達の意気込みは勿論私自身もライオンズクラブの一員として、何かお役に立てたらと準備を進めて参りました。そして冬休みに入って先生達がこの計画に集中して臨める様、12月26日・27日の両日に決め開催させて頂く運びとなりました。

創立65年目を迎えたわが園では、独自のカリキュラムを含めた様々な保育に勤しんでおりますが、安田式運動遊びや囲碁遊び・サイバードリーム（英語教材）・童謡などを通して、誰とでも仲良く遊べるように毎日を過ごしています。長年の歴史の重みを感じながら子ども達の成長を見守る私達は、ライフスキルとの出会いにより人と人との結びつきの大切さを改めて知ることができ、心より嬉しく思っております。

意見を述べ合い、工夫を凝らして発表

学校法人 からたち幼稚園　主任　山田恵子

講師の先生による愉しい話術に全員が惹きこまれ、硬く緊張していた私達は自然と笑顔になれました。『ライフスキル』という言葉に初めて出会い、人と人との結びつきの大切さを改めて知ることが出来ました。みんなでルールを決め、様々な方法で自己紹介をしたことが楽しかったです。印象に残ったのは模擬授業です。数人のグループに分かれての発表でしたが、それぞれ意見を述べ合い工夫を凝らしながら授業を進めました。最後に円陣を組んで全員で唱和した「はじめの一歩!」の元気な声が今も耳の奥で鮮やかに残ります。

〈普及活動事例2〉

園内型ワークショップ（京都府京都市）

開催日／2017年10月30日(月) - 31日(火)　開催場所／京都府京都市　対象園／あけぼの福祉会グループ園ほか　参加者数／24名

クラブの周年事業としてワークショップを開催

京都東
ライオンズクラブ
河原善雄

当クラブの周年に際し、前回の周年時と同様にライオンズクエストワークショップを当クラブ単独で開催することに決定致しました。そして、地区のクエスト委員長を経験していた関係上、ワークショップの開催を受けて頂ける学校探しが始まりました。しかし、関心はあるが丸二日間の日程となると、なかなか決まりません。その時に、昨年の七月から幼稚園・保育園版が出来たということを聞き、動き始めました。私が保育園の園長をしているということもあり、知り合いの園に声をかけさせて頂き、日程も平日の二日間に決まり、参加者も順調に集まりました。当日は、先生方も熱心にまた、和気あいあいと楽しく受講できました。今後、保育の場でしっかりと活用してもらいたいと思っています。

ふり返りの大切さ、重要さを実感！

あけぼのこども園
学年主任
城﨑敦司

ライフスキル教育というものを初めて聞き、段階を踏んで教えていく手法を2日間通して学ぶことができました。講義だけでなく模擬授業を体験したことで、子どもの多種多様な答えを受容し尊重することや、振り返りの大切さ重要さを実感出来ました。今までの自分の振り返り方を思い返してみると「今日何した?」と、子どもに問いかけ、「〇〇したね」「これからも楽しもうね。」と言葉がけしていただけでした。「どうだった?」「どう思った?」など子どもたちの気持ちを十分に聞いてあげられなかったなと反省しました。また、自分の意見や気持ちを受け入れてもらうこと、共感してもらうことの嬉しさを今回のグループ活動で実感することができました。この嬉しさを忘れず、子どもの答え、意見、気持ちを、これまで以上にもっともっと受け入れ、共感し、ほめていくことを大切にしたいと思いました。クラス運営を考えていく中で、このライフスキルプログラム教育で学んだ良い集団づくりを、まずは実践していきたいと思いました。

良いところが際立ち、子どもたちの心に響く！

京都市山科区永
興小金塚こども園
保育教諭
益子和子

今回の研修は私にとって大変役立つ内容となりました。特に模擬授業においては、例えば、はさみの指導を行う際に、子ども達に質問を投げかけ意見を求めた後、悪い例を保育教諭の立場でしっかりと演じ明確に伝える事、それによって良いところが際立ち、振り返りの質問をする事で、より子ども達の心に響くという事を教えて頂きました。今後はこの学びを生かし、子ども達が深く考えられるような伝え方を工夫していきたいと思います。

2日間がこれほど濃い時間になるとは思わなかった！

●ワークショップアンケートより抜粋

研修なのに、こんなに楽しくて実になると思えるものになかなか出会わないのですが、みんなが楽しくニコニコと過ごせた2日間でした。

話し合って意見を出す、提案して深くしていくなど、様々なプロセスがあり、みんながよりよい方へとすることを大切にしていて、自分以外の先生のやり方を見られてよかったです。

1つ1つの事例に対して、丁寧にわかりやすく伝えていく事がとても大切だとひしひしと感じました。又子ども達に考えさせて待つという時間も大切にしていこうと思います。子ども達自身からの発言を沢山ひきだせるようにしていきたいです。

園に持ち帰り、今日体験したことを生かし、子どもたちの思いを受け止め、考えていることを引き出しながら、今だからこその大切なスキルを身につけさせていきたいと思います。

幼稚園／保育所(園)版紹介

子どもたちへの最高のプレゼント！

幼稚園／保育所(園)版教材　翻訳担当　ライオンズクエスト認定講師　北山　敏和

幼稚園、保育園の子どもたちは、何事にも興味津々。日々知識の量が増え、新しい友だちができて、行動範囲が広がっていきます。一方、このような“おませ”な態度を見せるかと思うと、赤ちゃんに戻ったかのようにだだをこねたり、泣きわめいたりして、大人を困らせることも少なくありません。私たちは、子どもたちに、我慢したり、譲り合ったり、協力し合ったりする力をつけて欲しい、個性を伸ばし、一歩一歩成長して欲しいと願いながらも、その指導に悩むのが、この年齢の子どもたちです。

でもご安心ください。子どもたちの自律心と仲間と共に生きる力を育てるとても良い教材ができあがりました。すでに「小学生版」、「思春期版」で実績のある『ライオンズクエストライフスキル教育プログラム』の幼稚園／保育所(園)版です。

大人が読んで聞かせるお話、楽しく体を動かすゲーム、そしてみんなで学ぶこれから必要となるスキルが詰まった、とても豊かなプログラムです。対象はもちろん子どもたちですが、ついつい大人も「ふんふん」とうなずきながら一緒に学んでしまうところは、「小学生版」・「思春期版」と同じです。

幼稚園、保育所(園)の先生方、保護者のみなさん！このとっても楽しいプログラムを取り入れてみてはいかがでしょうか。ライオンズのみなさん、お子さんやお孫さんの通われている、あるいはお近くの幼稚園、保育所(園)に、ぜひおすすめください。

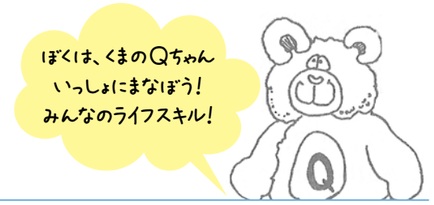
園内型ワークショップはいかがですか？大笑いして楽しく学べます！

ライオンズクエスト認定講師　柴　咲子

2017年夏から、長岡、京都、大分、尼崎にて計4回の幼稚園や保育園の先生方のみを対象としたワークショップを担当させていただきました。いつものワークショップの倍は大笑いして、楽しく終えることができました。

幼稚園／保育所(園)版プログラムのみを使ってのワークショップの特徴は、何といっても幼稚園／保育所(園)版に焦点を絞って、より深くたっぷり体験していただけることです。エネジャイザー(元気の出る活動)も幼稚園や保育園の子どもたちにすぐ使えるものを紹介。さまざまな活動や手法は、幼児の発達段階にぴったりです。例えば、大きなくまのQちゃん(ぬいぐるみ)を使って授業を進める手法、うまく自分の気持ちが表現できない幼児のために、Qちゃんの表情が描かれた判定パネルの活用、体の器官について知り、それを健康に保つための方法を考えさせる、考えて行動することを意識させるために「考えるぼうし」をかぶらせる、スキルを歌やジェスチャーで楽しく覚えるなど、そのほかにも楽しく学べるものばかりです。特定の幼稚園や保育園を対象にしたワークショップであれば、ライフスキル教育の理念を全職員で共有して子どもたちに対応でき、さらに職員間の親睦も図れますよ。

幼稚園／保育所(園)版は、子どもたちだけではなく、先生方も保護者の皆さんも一緒にライフスキルを学ぶことができます。収録されている授業をいくつかご紹介します。



仲間づくり

正しい名前と、みんなに呼んでほしい名前を発表するよ。「Qちゃん特急」ゲームでお互いの名前を覚えるよ。

単元1 授業1
あたらしい仲間との出会い！

グループ活動

“いっしょにする”ための3つの方法を学ぶよ。その方法を使って、3人組で「へんてこなどうぶつ」の絵を描くんだよ。

単元2 授業2
“いっしょにする”
という思いやり

助けを求める

どんなときに大人の助けが必要になるかを考えるよ。助けが必要な場面でどうしたらいいか、みんなで練習するよ。

単元4 授業4
たすけをよべるよ

意思決定

Qちゃんがデザートを選ぶお手伝いをするよ。安全な「えらべるもの」を示してくれる「しんらいできるおとな」を知って、「けってい」のステップを学ぶんだ。

単元3 授業2
「かんがえて、えらぶ」
方法を学ぶ

賞賛の気持ち

「するのが好きなこと」と「上手にできること」を考えて発表するよ。一覧表にまとめて、みんなで読みあげて、お祝いするよ。

単元5 授業2
ぼくにできること、
わたしにできること

※上記の授業紹介は、書籍「ライオンズクエスト認定講師柴咲子のライフスキル授業早わかりマップ」を参考に作成いたしました。同書籍は、幼稚園／保育所(園)版のみならず小学生版・思春期版を含めて全授業のあらすじを紹介しています。購入希望の方はこちらから。
http://lionsquest-japan.org/book/

〈実践事例〉

長野市立東部中学校

自己理解や他者理解を深めるために

ライフスキル教育実践の目的は、自己理解や他者理解を深め、不適応生徒の減少、学習意欲の向上の基礎となる生徒の自己コントロール能力、人間関係形成力、集団適応能力、望ましい集団形成能力を高めること。平成28年度より全校で取り組んでいます。

こんなところが良いところ！

知識として「わかっていること」でも、ライフスキルの授業の中で実際に活動してみることで、実際に行動することは難しいと感じることができます。さらに、難しいからあきらめるのではなく、改善策やよりよい方向に向かうための具体的な考え方や行動（スキル）を学ぶことができます。

テストの点や5段階評価と関係ないところで、リラックスした雰囲気の中で学んだり、活動したりすることができます。他の授業時間に比べると、自然な流れで友達と関わり合う場面をつくることができています。

1学期の新しい生活集団がスタートした時期、人間関係が固定化されてしまってきている時期、卒業後の将来を考え始める時期など、生徒や集団の成長段階に応じて扱う単元を決定することができます。生徒自身の考えを深めたり、仲間の思いを共有したりできる時間を設けることができます。

課題

年間指導計画の再検討と時数の調整

❶いつ、どの単元が、どのくらいの時数必要か、係会を開いて検討する

❷本校生徒にとって必要な単元、本校で実施するのは困難な単元を整理する

教材の整理

❶使用した教材の整理をして次年度も使えるようにする

❷授業者が授業計画を立てる際、指導書だけではなく、実際に授業を行った授業者の工夫点や反省点の一覧表を作成することが可能かどうか検討している

ライフスキル教育の目的を職員間で共有

❶生徒のスモールステップを見取り、生徒理解につなげる。周囲との関わりや自己理解の深まりといった生徒の変化を、長いスパンで観察できるような時間にしていく

❷時間の中で力をつけることや望ましい姿になることを求めすぎない。単元の目的を明確にしながらも、スキルを身につけるための時間であることを再確認し、生徒が意欲的に取り組んだり、友達と関わったりする場面（時間）を提供することを第一に考える。

1年生の感想

●「価値観」について

よい価値観に従って行動すると、みんなが嬉しくなったり楽しくなったりすることができる。お互いに気持ちよく過ごすためには大切なことだな、と気づくことができました。

今日は価値観のことなどをやりました。いつも通り楽しく授業をできたのでよかったです！天使と悪魔がささやいた時に、自分が行っているよいことや悪いことを見直すことができてよかったです。

2年生の感想

●「賞賛」について

友だちを賞賛する手紙を○○さんと□□君へ書きました。普段あまりいいところを見たりしていなかったので、今回の授業で改めていいところを感じることができたと思います。

友だちから賞賛の手紙をもらいました。もらった手紙には「友達思いだ」とか「周りをよく見ている」と書いてありすごくうれしかったです。なかなかそういうことは言ってもらえないのでうれしいです。

3年生の感想

●「NO!という」について

今日のライフスキルは「ASK」!!楽しかったし、生活に必要なスキルが身についた。これから高校で友達ができるので、しっかり考えて言動にも気をつけて生活していきたい。

「友達の悪い誘いをうまく断る方法」は最終的には「野球しようぜ」で解決するんですね。私の友達にはそんな悪い誘いをする友達はいないけど、もしそんな場面に出会ったら、今日の対処法を実験してみたいと思います!!

●「20歳のわたし」について

ライフスキルで人生設計について考えました。僕は、都会すぎるところは好きではないので、田舎で生活するのがいいなと考えました。人生設計を考えるのは楽しかったです。

5年後、20歳になった時の自分が何をしているのか考えて書きました。今まで考えたことがなかったので考えることができてよかったです。今日考えたことが実現できるように今からしっかりやっていきたいです。

支援するライオンズクラブより

レオ・青少年・ライオンズクエスト・薬物乱用防止委員会副委員長
吉川敏一（飯田ライオンズクラブ）

ライオンズクラブ国際協会334-Eは、長野県連絡協定に基づいて、ライオンズクエストを継続事業として実施しています。「未来を担う子供たちを支援し、教育の輪を広げ、思いやりと責任感を持った青少年の育成に取り組む」を趣意に学校、家庭及び地域の三位一体で取り組みライオンズクラブの奉仕の心を広く地域の方々に認知していただく活動です。

そのような中、ライオンズクエストプログラムを導入し、全校で取り組んでいただいている東部中学校の関係者の皆様方におきましては、感謝申し上げる次第です。生徒の感想から、「ライフスキル」の単語が出てくる事に嬉しさを感じます。これからも貴校をフォローアップしながら、多くのライオンズクラブメンバーとこの活動を共有し確信して、新たな学校へのアプローチに繋げて行こうと考えております。

ライオンズクエスト認定講師より

ライオンズクエスト認定講師　外川　澄子

初めて東部中学校の村田前校長先生にお会いしたのはセミナーでした。教務主任の方だったでしょうか、お二人で参加されていました。まずはお二人で、ライオンズクエストプログラムとはどんなものか、よく知りたいと思われたのでしょう。ライオンズクラブの方は「いいプログラムだ！」というけれど、本当かな？ということではなかったかと思います。

そして、しばらくして、JIYD事務局から、「東部中学校から学校全体でワークショップを受けたいという希望が出ている」という連絡がありました。校長先生には、これだ！という確信がもてたのでしょう。しかし、ただ、ワークショップの第一日目にお伺いしたときは、まだ、ライオンズクエストの導入に向けた先生方全員の足並みが揃っているわけではないようにお見受けしました。プログラムをまだ体験したことのない人であれば当然のこと、半信半疑の先生方もおられたのではないでしょうか。

でも、1年半後、全校で全クラスが授業を行い、研究発表会をするとのご案内をいただき、行かせていただきました。各教室を回ってみると、それぞれの先生が真剣に生徒達一人一人と向き合って授業をされているではありませんか！

これまでのことが拝察できる授業で、生徒たちが楽しそうに、そして真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。全校で共通認識のもと、取り組むことがいかに生徒たちを変容させるのかということを目のあたりにしました。

校長先生の英断、そして先生たちの変化、それが生徒を変え、学校を変えたのです!!

このことは、学校だけにとどまらず、長野県の青少年の主張で同校の生徒さんが最優秀賞・優秀賞をいただいたことで外部からも高く評価されたと言っていいでしょう。

また、一重に目標を掲げられて取り組まれてこられた、ライオンズクラブの皆様の努力の成果と言ってよいでしょう。これからも東部中学校の継続はもちろんのこと、ライフスキル教育が広がっていくことを願っています。

2017年度事業報告

○幼稚園／保育所(園)版の教材の導入がスタート！
○授業の様子や生徒・先生のインタビューなどを含む、
　プログラムを紹介する動画を制作！
○子どもたちの放課後の時間を活用したライフスキル教育を試行！

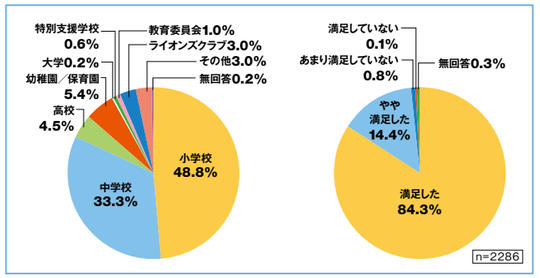
ワークショップは107回開催。校内型の開催がおよそ6割を超えました

ライオンズクエストプログラムのワークショップは、プログラムの理念や指導方法について、体験的に学習する研修会です。2017年度は、全国各地で、ライオンズクラブの支援により、多くは県・市区町村の教育委員会と連携して、107回開催し、2,383名が参加(修了)しました。

2017年度ワークショップ開催ハイライト

- ▶ 開催形態(※)の内訳:公募型43回、校内型64回
- ▶ 修了者の63%が20代・30代、次いで50代(16%)
- ▶ 修了者の49%が小学校教員、33%が中学校教員
- ▶ 修了者の98%が「満足した・やや満足した」と回答

(※「公募型」では参加者を開催地域から募集、「校内型」は特定の学校または校区(1校の中学校と複数の小学校)を対象に開催)



多様なニーズに応えた開催形態

2016年10月より試行している「1日」で完結する開催形態を含め、今年度も学校現場のニーズに対応した様々な形態での開催に取り組みました。

形式	内容
2日間(連続)	従来の標準的な形式
2日間(スプリット)	1日目と2日目を離した(概ね1週間から数ヵ月)形式
1日(ワンデー)	1日に短縮した形式(試行中)
2日間+フォローアップ合体型	2日目をフォローアップと兼ねて開催する形式(試行中)
大学授業	京都教育大学で実施している「ライフスキル教育授業」

幼稚園／保育所(園)版教材の導入がスタート！

幼稚園教諭や保育士の参加の増加に伴い、2017年7月より新たな教材として「幼稚園／保育所(園)版」を導入しました。これにより未就学児へもライフスキル教育を届けることができるようになりました。2017年度は保育園・幼稚園でのワークショップ開催(園内型)が4件実現しました。今後、幼児教育への展開、普及が期待されます。

ワークショップハンドブックがリニューアル！

ワークショップ参加者に配布している「ワークショップハンドブック」を刷新しました。よりコンパクトに要点をまとめ、ワークショップに参加しながら、参加した後の復習にも有効な一冊となっています。

紹介映像が完成！

ライオンズクエストプログラムの概要と普及活動の内容を簡単に紹介できるツールとして、映像を発行しました。映像を視聴することで、ライフスキルとは何か、プログラムの内容を知ることができます。実際の授業風景を多数紹介し、実践校の生徒や先生方の声も収録しています。これらはホームページやYouTubeで閲覧ができます。またDVDとしても販売しています。

ライフスキル教室の開催

子どもたちの放課後の時間を利用し、認定講師が直接ライフスキル授業を実施する機会を設けた、課外授業「ライフスキル教室」を実施しました。参加した子どもたちは、認定講師と信頼関係を深めながら、学校とは別の場所でライフスキル授業を学ぶことができ、安心できる居場所のような存在となったようです。来年度も引き続き、実施予定です。

日本財団「子どもの貧困対策プロジェクト」への参加

日本財団が実施する「子どもの貧困対策プロジェクト」で設置される「居場所」へライフスキル教育プログラムを導入する取り組みを進めています。今年度は、導入に向けた課題の整理やプログラムの授業選定等を行いました。来年度は「居場所」スタッフへの研修、実施後の効果検証、課題分析、評価を実施します。日本財団「子どもの貧困対策プロジェクト」ウェブサイト:
https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/ending_child_poverty/

説明員研修会/地区関係者勉強会の開催

2017年9月23日(土)、東京都中央区で、ライオンズクエストプログラム説明員とライオンズクラブのライオンズクエスト関係者(地区ライオンズクエスト委員会関係者)が一堂に会し、研修会・勉強会を開催しました。2017年7月より導入した「幼稚園／保育所(園)版」教材の紹介や昨今話題となっているアクティブラーニングや道徳の教科化とライオンズクエストプログラムの関連について、体験を交えて考える内容を実施しました。また、昨年同様に、各地区のライオンズクエスト関係者にもご参加いただき、説明員といっしょに普及活動について考える機会を設けた「地区関係者勉強会」を併せて開催しました。

台湾へのライオンズクエスト導入支援

台湾のライオンズクラブ組織(300複合地区)からの依頼により、台湾でのライオンズクエスト導入支援に着手しました。2017年5月に日本からライオンズクエスト認定上級講師を派遣し、台北市内でワークショップを実施しました。今後、ライオンズクエスト認定講師の養成を進めていく予定です。

LCIF四大交付金・普及拡大に取り組む地区は31準地区

ライオンズクラブ国際財団(LCIF)より、全国のライオンズクラブが地区単位で助成金(四大交付金)を得て、普及活動に取り組んでいます。2017年1～12月の期間中では31準地区が取り組まれています。

2017年末現在、ライオンズクエスト説明員は全国に66名

ライオンズクエスト説明員は、ライオンズクラブの推薦を受けたライオンズメンバーなどで、JIYDの講習を受けてプログラムの説明・模擬授業を含めたセミナーを実施できるようになった方です。地域の学校や教育委員会を訪問して説明やセミナーを開催したり、ライオンズクラブの例会や会合でプログラムを紹介したりしています。2015年7月に制度をリニューアルし、各地区の普及活動をサポートする役割も追加されました。地域のニーズに対応する普及活動に欠かせない存在となっています。2017年は9名の説明員を養成しました。

ワークショップの効果を図る国際調査が進んでいます

2015年より、フィンランドのヘルシンキ大学が中心となり実施しているワークショップの効果を測る国際比較調査へ参加協力しています。
http://lions-quest-evaluation-project.webnode.fi/
フィンランド、イタリア、リトアニア、日本が参加した2015-2016年度に続き、2016-2017年度は、アルゼンチン、オーストリア、ドイツ、トルコが調査に加わり、日本からも新たに小・中学校教員約200名が参加しました。調査の分析結果の速報によると、前年度同様に概ね前向きな結果が出ている、としています。
アンケートの配布と回収は、調査を実施した地域のライオンズクラブや教育委員会、学校にご協力いただいています。この場を借りて、ご協力に感謝申し上げます。

2017年度決算報告（1）

貸借対照表 2017年12月31日現在

科　目	当期分	前期分	差　異
《Ⅰ資産の部》			
【流動資産】			
現金・預金			
一般口	3,017,268	1,112,466	1,904,802
立替資金口　※1	20,472,227	6,912,151	13,560,076
貯蔵品	5,050,326	5,199,355	△ 149,029
前払費用	854,915	796,223	58,692
立替金	0	0	0
未収入金	39,736,454	49,229,272	△ 9,492,818
流動資産合計	69,131,190	63,249,467	5,881,723
【固定資産】			
什器備品	4	31,411	△ 31,407
敷金	300,000	300,000	0
ライフスキル教育普及事業積立預金　※2	7,000,000	13,000,000	△ 6,000,000
固定資産合計	7,300,004	13,331,411	△ 6,031,407
資産の部　合計	76,431,194	76,580,878	△ 149,684
《Ⅱ負債の部》			
【流動負債】			
未払金	1,894,007	2,497,391	△ 603,384
前受金	1,912,000	0	1,912,000
預り金	197,026	167,961	29,065
未払消費税	344,700	377,400	△ 32,700
流動負債合計	4,347,733	3,042,752	1,304,981
《Ⅲ正味財産の部》			
前期繰越正味財産額	73,538,126	73,836,283	△ 298,157
当期正味財産増減額	△ 1,454,665	△ 298,157	△ 1,156,508
正味財産の部　合計	72,083,461	73,538,126	△ 1,454,665
負債及び正味財産の部　合計	76,431,194	76,580,878	△ 149,684

※1. ライフスキル事業の運転資金です。
※2. ライフスキル事業に於ける中・長期積立金で、教材開発など予測される付随事業への充当、および長期に渡る活動の維持を目的としています。
当期600万円を取り崩し、立替資金口に充当しました。

活動計算書（2017年1月1日から　2017年12月31日まで）

（単位：円）

科　目	当期分	前期分	差　異
《Ⅰ経常収益》			
【受取会費】			
正会員受取会費			
個人	340,000	300,000	40,000
法人	0	0	0
受取会費計	340,000	300,000	40,000
【受取寄付金】			
使途指定寄付金	100,000	100,000	0
一般寄付金	73,300	93,000	△ 19,700
受取寄付金計	173,300	193,000	△ 19,700
【受取助成金-ライフスキル教育普及事業】※1			
ライオンズクラブ国際財団	51,689,256	63,452,965	△ 11,763,709
その他	2,951,363	2,110,610	840,753
受取助成金-ライフスキル教育普及事業計	54,640,619	65,563,575	△ 10,922,956
【事業収益-ライフスキル教育普及事業】			
ワークショップ参加費収益	9,999,000	10,736,000	△ 737,000
その他:体験会謝礼等	2,345,149	2,110,337	234,812
事業収益-ライフスキル教育普及事業計	12,344,149	12,846,337	△ 502,188
【その他収益】			
受取利息	996	4,973	△ 3,977
雑収入			
ワークショップキャンセル料	63,000	265,000	△ 202,000
書籍売上	359,900	1,379,000	△ 1,019,100
その他	83,683	24,000	59,683
その他収益計	507,579	1,672,973	△ 1,225,077
経常収益計	68,005,647	80,575,885	△ 12,629,921
《Ⅱ経常費用》			
【事業費】			
(1)人件費			
給料手当	14,085,479	14,535,021	△ 449,542
法定福利費	1,622,015	1,738,722	△ 116,707
通勤費	660,018	685,762	△ 25,744
人件費計	16,367,512	16,959,505	△ 591,993
(2)その他経費			
謝金　※2	14,477,193	17,163,964	△ 2,686,771
通信費	320,645	380,918	△ 60,273
荷造運賃	2,757,046	2,310,710	446,336
旅費交通費	7,530,228	8,082,886	△ 552,658
WS昼食代　※3	42,000	42,540	△ 540
消耗品費	373,349	474,829	△ 101,480
会場費	367,180	492,863	△ 125,683
家賃	1,296,000	1,296,000	0
リース料	419,472	392,409	27,063
支払手数料	112,648	124,640	△ 11,992
印刷費　※4	14,706,820	20,950,135	△ 6,243,315
ライセンス料　※5	1,479,925	1,559,925	△ 80,000
外注費	302,607	937,820	△ 635,213
その他　※6	355,705	592,611	△ 236,906
その他経費計	44,540,818	54,802,250	△ 10,261,432
事業費計	60,908,330	71,761,755	△ 10,853,425
【管理費】			
(1)人件費			
給料手当	3,520,557	3,476,070	44,487
法定福利費	1,122,761	1,083,530	39,231
通勤費	236,730	300,290	△ 63,560
人件費計	4,880,048	4,859,890	20,158
(2)その他経費			
支払報酬　※7	248,711	287,547	△ 38,836
通信費	281,508	365,005	△ 83,497
荷造運賃	59,670	28,921	30,749
水道光熱費	129,493	123,485	6,008
旅費交通費	263,645	216,386	47,259
消耗品費	123,505	177,555	△ 54,050
会場費	100,320	110,376	△ 10,056
家賃	1,296,000	1,296,000	0
租税公課	346,861	378,303	△ 31,442
リース料	419,472	392,409	27,063
支払手数料	51,584	66,147	△ 14,563
印刷費	27,160	53,054	△25,894
減価償却費	31,407	31,408	△ 1
その他　※8	284,598	256,936	27,662
その他経費計	3,663,934	3,783,532	△ 119,598
管理費計	8,543,982	8,643,422	△ 99,440
経常費用計	69,452,312	80,405,177	△ 10,952,865
当期経常増減額	△ 1,446,665	170,708	△ 1,617,373
《Ⅲ経常外収益》			
経常外収益計	0	0	0
《Ⅳ経常外費用》			
特別損失	8,000	468,865	△ 460,865
経常外費用計	8,000	468,865	△ 460,865
当期正味財産増減額	△ 1,454,665	△ 298,157	△ 1,156,508
前期繰越正味財産額	73,538,126	73,836,283	△ 298,157
次期繰越正味財産額	72,083,461	73,538,126	△ 1,454,665

※1.「受取助成金- ライフスキル教育普及事業」の細目として、ライオンズクラブ国際財団のライオンズクエスト四大交付金事業に関わる受取助成金は「ライオンズクラブ国際財団」、それ以外の事業に関わる受取助成金については「その他」と表記しています。　※2.ワークショップやセミナー開催におけるライオンズクエスト認定講師および説明員への謝金、普及・広報活動におけるPR 資料の原稿執筆料、教材開発・改訂、認定講師養成、ワークショップのアンケート集計などに対する謝金です。　※3.東京ワークショップ（JIYD 共催）の昼食代です。　※4.教材、書籍、パンフレット、年次報告書、名刺等の印刷です。
※5.ライオンズクラブ国際財団（LCIF）に対するライオンズクエスト ライフスキル教育プログラムのライセンス料です。　※6.会議費、修繕費、雑費が含まれます。　※7.会計監査報酬、労務諸手続報酬、総会講演会謝金です。　※8.会議費、保険料、諸会費、修繕費、雑費が含まれます。

2017年度決算報告(2)

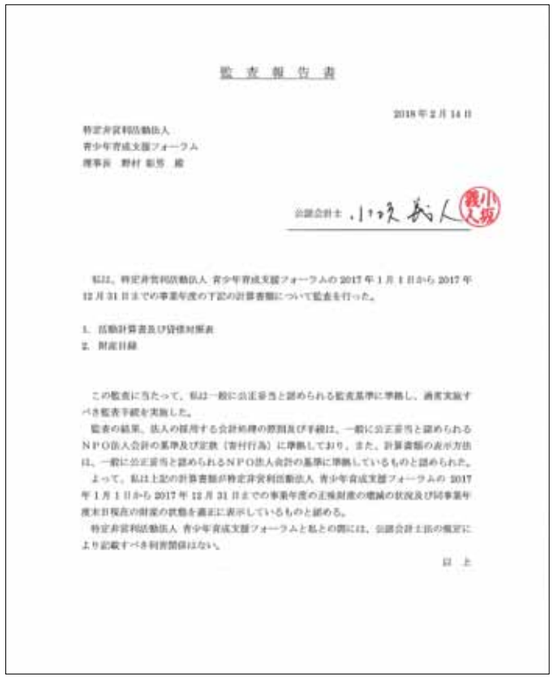
事業費の内訳

ライフスキル教育事業には、ワークショップの開催、セミナーの開催、教材開発・改訂事業、認定講師養成事業、評価事業等が含まれます。

広報事業には、年報の発行、ホームページの運営・管理が含まれます。

	ライフスキル教育事業	広報事業計	事業費計
(1)人件費			
給料手当	13,845,479	240,000	14,085,479
法定福利費	1,622,015	0	1,622,015
通勤費	660,018	0	660,018
人件費計	16,127,512	240,000	16,367,512
(2)その他経費			
謝金	14,467,193	10,000	14,477,193
通信費	311,513	9,132	320,645
荷造運賃	2,723,836	33,210	2,757,046
旅費交通費	7,530,228	0	7,530,228
WS昼食代	42,000	0	42,000
消耗品費	373,349	0	373,349
会場費	367,180	0	367,180
家賃	1,296,000	0	1,296,000
リース料	419,472	0	419,472
支払手数料	112,324	324	112,648
印刷費	14,622,590	84,230	14,706,820
ライセンス料	1,479,925	0	1,479,925
外注費	174,607	128,000	302,607
その他	355,705	0	355,705
その他経費計	44,275,922	264,896	44,540,818
合計	60,403,434	504,896	60,908,330

監査報告書



監 査 報 告 書

2018年2月14日

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム
理事長　野村 彰男　殿

公認会計士 小林 義人

私は、特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムの2017年1月1日から2017年12月31日までの事業年度の下記の計算書類について監査を行った。

1. 活動計算書及び貸借対照表
2. 財産目録

この監査に当たって、私は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、適当実施すべき監査手続を実施した。

監査の結果、法人の採用する会計処理の原則及び手続は、一般に公正妥当と認められるNPO法人会計の基準及び定款（寄付行為）に準拠しており、また、計算書類の表示方法は、一般に公正妥当と認められるNPO法人会計の基準に準拠しているものと認められた。

よって、私は上記の計算書類が特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムの2017年1月1日から2017年12月31日までの事業年度の正味財産の増減の状況及び同事業年度末日現在の財産の状態を適正に表示しているものと認める。

特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムと私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

2018年度事業計画(1)

2017年夏より導入した「幼稚園／保育所（園）版」教材を活用した、
幼稚園・保育園でのワークショップ開催を推進していきます。
また、子どもたちの放課後の時間を活用したライフスキル教育の実施にも取り組んでいきます。
さらに、数年来取り組んでいるワークショップ開催形態の多様化や
教材開発・改訂、講師養成といった普及活動の基盤整備・拡充にも取り組んでいきます。

幼稚園・保育園での ワークショップ実施を推進

2017年7月より導入したライオンズクエスト「幼稚園／保育所(園)」教材を使用し、幼稚園・保育園で開催される園内型のワークショップを推進していきます。ライフスキル教育を未就学児も受けることができるよう、幼児教育への展開、普及を進めていきます。

課外授業 「ライフスキル教室」の開催

子どもたちの放課後の時間を利用し、ライフスキル教育を実践する機会を設けた、課外授業「ライフスキル教室」を引き続き実施していきます。2017年5月から取り組み始めた本事業は、主に東京都府中市内の小学校に通う児童を対象としてきました。今後は他の地域でも開催できるよう、モデル開発を進めます。

日本財団「子どもの貧困対策 プロジェクト」への参加

2017年10月より、日本財団「子どもの貧困対策プロジェクト」へ「ライフスキル教育プログラム・パイロット導入プロジェクト」として参加しています。2018年度は「居場所」に通う学童へのライフスキル教育プログラムの実施と試行の段階へと移ります。実施後の効果検証、課題分析、評価を行い、他の「居場所」へ導入するためのモデル開発も進めていきます。

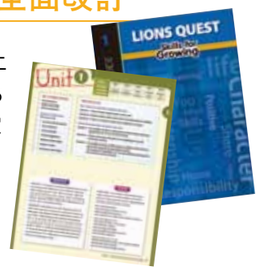
ワークショップ開催形態の 多様化の推進

2016年10月より試行してきた1日の日程でワークショップを開催する「1日(ワンデー)」を含めて、受講者のニーズに合わせて、多様な開催形態を検討し、実施・試行してきました。これまで実施・試行してきた下記の開催形態を整理し、効果的な研修形態を提案していきます。

形式	内容
2日間（連続）	従来の標準的な形式
2日間(スプリット)	1日目と2日目を離した（概ね1週間から数ヵ月）形式
1日（ワンデー）	1日に短縮した形式
2日間＋フォローアップ合体型	2日目をフォローアップと兼ねて開催する形式
大学授業	京都教育大学で実施している「ライフスキル教育授業」

2018年度事業計画(2)

ライオンズクエスト「思春期版」「小学生版」教材の全面改訂



大幅に改訂されたライオンズクエストプログラムの英語版教材にあわせ、日本語版教材の全面改定を行います。対象は「思春期版」と「小学生版」で、2019年より導入を予定しています。

講師養成

現在、ライオンズクエスト「ライフスキル教育プログラム」ワークショップの専門講師(ライオンズクエスト認定講師)は、10名います。ワークショップの開催時期が夏休み期間中に集中している現状や開催形態の多様化を進める中で、講師体制の拡充は必要不可欠です。2018年にライオンズクエスト認定講師を増員する講師養成に着手します。

ライオンズクエストプログラムのパンフレット改訂

先に挙げた教材の改訂と導入に伴い、パンフレットの改訂を行います。改訂された教材の情報はもちろん、プログラムの概要やワークショップの内容、書籍等の案内も掲載する予定です。

「説明員研修会・地区ライオンズクエスト関係者勉強会」を開催!

ライオンズクエストプログラム説明員の研修と、各地のライオンズクラブの地区ライオンズクエスト関係者の皆さまに各地の普及活動状況などを知っていただく機会として、「説明員研修会・地区ライオンズクエスト関係者勉強会」を今年も開催します。皆さまといっしょにライオンズクエストについて考え、意見交換しましょう!
(2018年9月頃・東京にて実施予定)

ヨーロッパ会議への参加
(ジョージア/旧称:グルジア)

ヨーロッパ地域では、毎年1回、同地域のライオンズクエスト認定講師、並びに関係者を集めた「ライオンズクエストヨーロッパ会議(LQEM)」が開催されており、2018年1月にジョージア・トリビシ市で開催される会議に、JIYD理事2名(事務局長、ライオンズクエスト認定講師)がオブザーバーとして参加し、交流、情報交換をします。LCIFが、ライオンズクエストの普及活動が最も革新的であると評価しているヨーロッパの取り組みに触れる貴重な機会です。

会員・寄付者・理事会・講師

2017年度会員 (2017年12月末日現在)

◯個人:52名

石原 典子　大島 賢三　西園寺 裕夫　島田 佳宣
田上 敬子　田川 薫　成瀬 健生　西木 宣雄
降矢 千秋　武藤 博昭　百田 勝彦　山田 礼子

2017年度寄付者 (2017年12月末日現在)

◯法人・団体

トヨタエルアンドエフ東京株式会社

◯個人:8名

※上記の会員、並びに寄付者の法人名・個人名は、掲載をご承諾頂いた方のみ掲載しています。(敬称略、五十音順)

理事会 (2018年4月1日現在)

理事長	野村　彰男	公益財団法人日本国際連合協会　理事
		特別非営利活動法人フォーリン・プレスセンター　理事
理事	中雄　政幸	特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム　ファウンダー(前事務局長、L.)
	栗田　收司	元日本ビクター株式会社取締役
	西田　浩子	公益財団法人かめのり財団　理事・事務局長
	佐渡　涼子	ライオンズクエスト認定上級講師
	北山　敏和	ライオンズクエスト認定講師
		教育学/健康教育学講師
	足達　靖彦	ライオンズクラブ国際協会335-C地区　名誉顧問・元地区ガバナー
		ライオンズクラブ国際協会335複合地区　ライオンズクエスト委員長
		学校法人明珠学園理事、京都翔英高等学校副校長
	馬渕　英晃	特定非営利活動法人　青少年育成支援フォーラム　事務局長兼務
		ライオンズクエスト　カントリーディレクター
名誉理事	守隨　武雄	パナソニック株式会社　客員
	藤本　厚子	元幼稚園教諭
監事	山本　和夫	東京ライオンズクラブ所属公認会計士

(L. =ライオンズメンバー)　(就任時期順)

ライオンズクエスト認定講師 (2018年4月1日現在)

岡松 佐知子　北山 敏和☆　佐渡 涼子*☆　篠田 康人　柴 咲子
嶋田 祐子　寺本 之人　外川 澄子　中村 千恵子　原田 達明

(*=認定上級講師、☆=青少年育成支援フォーラム理事　五十音順)

講師プロフィール等は、Lions Questライフスキル教育プログラムのホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。
http://lionsquest-japan.org

JIYDのネットワークと活動

皆様のご理解・ご支援をいただきながら、事業パートナーと協同して、
「ライフスキル教育」の普及に取り組んでいます。

ライオンズクラブ国際協会(LCI)

世界中に4万6千を超えるクラブ、140万人以上の会員を有する世界最大の奉仕団体で、210の国・地域でメンバーは地域奉仕に取り組んでいます。ライオンズクラブの活動分野は、視力関係、地域奉仕活動、環境、災害救援など、多岐にわたり、ライオンズクエストプログラムの普及を含む青少年育成はその一つです。

○JIYDは、LQ実施団体として、ライオンズクラブによる普及活動をサポートするとともに、協同して普及活動に取り組んでいます。

ライオンズクラブ国際財団(LCIF)

人類の奉仕に貢献することを目的に、LCI により設立されました。2002 年にライオンズクエストプログラムの著作権を取得し、同財団の青少年健全育成プログラムとして、世界各国のライオンズクラブによる普及活動を支援しています。

○JIYDは、2003年以降、LCIFより日本におけるライオンズクエスト実施団体として指定されています。

International Youth Foundation (IYF、国際青少年育成財団)

ライオンズクエストプログラムを開発したリック・リトルにより1990 年に創設されました。青少年の置かれている状況と将来展望を改善すべく、世界各地の団体とパートナーシップ関係を結び、各地の青少年のニーズに合致した事業を見出し、広めています。

○JIYDは、1997年にIYFの日本事務局(IYF-Japan)として設置され、2002年にNPO法人化して以降、現在もGlobal Partner Networkのメンバーです。

企業・団体・個人

JIYD の事務局運営や「ライフスキル教育」普及事業に対して、ご支援をいただいています。

JIYD

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム

JIYD

VISION

すべての青少年が、右記にあげる「5つの財産」をもって成長していくことのできる社会を目指します。

1. 無条件に受け入れる大人が一人でもいる
2. 眠り、遊び、学び、「居る」ことのできる安全で安心できる場所
3. 心身ともに健康な生活習慣
4. 人のためになることをする機会
5. 社会人として自立できる技能、知識、価値観を身につける機会

MISSION

より多くの青少年に、よりよく役立つプログラムの拡大・強化・普及を効率的に進め、青少年の健全育成に寄与する。

ライフスキル教育普及事業

ライオンズクエスト

○普及活動

ワークショップ開催
プログラム導入・実施支援
セミナー開催
教材開発・改訂
評価事業
認定講師養成

教育行政
学校
教員
青少年活動指導者

子ども
青少年